重要な構成要素「茗荷屋（みょうがや）」

建築（店舗）：昭和初期

参道の景観を構成する要素

「茗荷屋」は、門前の草分けとして古くから神仏具、縁起物、観光土産を販売した木造２階建ての店舗です。店舗部分は、柴又帝釈天の参道が門前としてのまちなみを形成してきた昭和初期の時代の建築です。

店舗２階部分を見ると、シンプルな外観の建造物ですが、正面に庇（ひさし）を付加して開放的な軒庇下の空間を作り、庇上には看板を配置しています。

茗荷屋の立地は、参道が直線的に伸び、両側に中小の店舗が並ぶ一帯に位置します。戦前の建造物が保全されているのみならず、参道店舗の群としての連続性が保たれている点もまた重要です。

参道側の開け放した軒庇下で商品を店頭販売し、参道側の外観は、ファサードが連続した参道において、屋根、庇などのまちなみの表情を作る要素によって賑わいを演出しています。

昭和 58～59 年（帝釈天題経寺提供）